

魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会「中間まとめ」に対する
意見募集（パブリックコメント）の結果について

魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会

募集期間 平成19年12月26日(水)～平成20年1月25日(金)

46の団体・個人の方から73件・44項目のご意見をいただきました。

・同主旨のご意見はまとめさせていただきました。

・意見の番号は整理番号

1. 高校教育又は教育全般に関する意見

番号	意見(要旨)	件数
1	少子化に伴い、それに見合った学校数にすることは当然であるが、その内容についても時代にあった多様化が必要である。社会が必要とする人材を育成するのが学校教育だと考える。	1
2	企業から見て、学生たちには「知識」はあっても「知恵」、即ち工夫する力は備わっていない。自分の考えをきちんと伝える力を磨くためコミュニケーション教育の推進が必要と考える。また、指導にあたる教職員は変動の多い社会を広く見渡せる力を養ってほしい。	1
3	自分や郷土に誇りをもち、人にきちんと紹介できるよう、本県の歴史や生活文化等について学び、身につける時間を設けることが必要ではないか。	1
4	高校が地域との関わりを深くすることは、地域の活性化にもつながるし、双方が積極的に関わることで、自然に見守りの体制と支え合う心が芽生える。このことは高校生の自主的な地域社会への貢献と、落ち着いた、明るい、目的を持った学校生活へと導いている。このような高校の積極的な働きかけと地域の支援を評価してほしい。	2
5	高校が、平素から地域住民への情報発信や地域行事への参加など地域コミュニティや文化の拠点としての役割を果たしているのか県教委で把握・評価しておいてほしい。	1
6	地域と連携した教育に取り組んでいる高校もあるが、さらに産官学の連携による教育を推進するため、中山間地域研究センターとの連携、相互研究などを行うシステムを創出してほしい。	2
7	専門的な自己研鑽の場として、学校図書館の蔵書の充実を望む。また、学校に専門性があるように学校図書館も学校ごとに特色をもたせても面白いし、品格を高める勉強の場とすることも必要である。	1

2. 普通高校に関する意見

番号	意見(要旨)	件数
8	普通高校においても「若年者の県内定住」を考えさせる必要はあるため、そのことを明記してほしい。	1

3. 専門高校に関する意見

番号	意見(要旨)	件数
20	「ものづくり」を担う企業では熟練工の必要性が指摘されている。技能は若い内に習得するほうが良いと考える。その点において専門高校の存在価値がある。	1
21	これからの企業存続に必要な技術・技能の継承や人材確保・育成のため、さらには若年者の県内定住を促進する上でも、専門高校が必要であり、専門高校でより充実した教育が行われ、確たる将来目標や職業意識を持った人材の育成を図ることが重要である。また、時代の要請に応じた教育も必要と考えられるため、業界から講師を派遣することも検討してみてもどうか。	4
22	県内産業の担い手を育成する専門高校の役割を考慮し、専門高校の学級減は極力避け、時代の要請に応じた学科改編などの適切な対応を行う。	1
23	専門学科は、その設置目的から、現在においても生徒あるいは家族、地域が必要としている。また、一部の専門学科は地域との関わりを緊密にすることにより地域の活力にも貢献している。このような点を踏まえ、極端なケースを除き定数規模の概念をなくしてほしい。	3
24	社会のニーズに対応した高校づくり、島根県の将来を担う人材育成の観点から、地域の産業振興を考えた意見をもっと尊重すべきである。	1
25	高度な専門技術者(職人)育成のためには、3年課程では短すぎる。例えば高専のような5年課程の高度な職業教育制度を導入することの検討も重要かと思う。	1

4. 総合学科に関する意見

番号	意見(要旨)	件数
9	総合学科の目指しているねらいが達成できているのか、生徒のニーズに応えた学習が展開されているのか、今一つ成果が見えてこない。	1

5. 専門学科に関する意見

番号	意見(要旨)	件数
10	中学生の段階では自分の適性や能力等を客観的に認識する力が十分でないことや、現在は総合的な思考が求められるようになってきていることから、理数科の設置には疑問を感じている。設置するとしても高校入学後2年生で選択するシステムにすることが適当と考える。	1
11	自分の体を育て、大切に作る体育はとても重要な科目である。呼吸の仕方、怒りの静め方、養生(ダイエット)の仕方等は生の基本であり、スポーツとは異なった体育の分野の重要性を評価、記述してほしい。	1
12	芸術科(音楽・美術)、博物科(地学・生物・地理を併学)、歴史文学科などを設置すべきである。また、これらの学校には寄宿舎を設け県外の生徒をかなりの数受け入れるべきである。	2
13	地球環境の悪化が問題視されている中で、環境関係の専門科が県内からなくなることはいかなるものか。レベルの問題もあるが、意識の問題でもある。また、保護者の教育費の負担も考えておくべきである。	1

6. 中高一貫教育に関する意見

番号	意見(要旨)	件数
14	中高一貫教育の連携型では、中学校と高校が取り組める分野が限られており、あまり評価は得られないのではないかと。	1
15	学力とその学力を活かせる感性や知性を備えた「人財」育成を図る観点から、今行われている連携型を一步進めて、中・高の6年間をかけて徹底的に学力と人間力を養成する中高一貫教育を導入してはどうか。	1
16	今後の中高一貫教育について、併設型および中等教育学校を含め、都市部に限らず全県域を対象として積極的に検討してほしい。	3
17	津和野藩の藩校「養老館」以来、長年にわたり培われた教育に関する伝統、風土を有する津和野町に併設型中高一貫教育を導入してほしい。	1

7. 特別支援教育への対応に関する意見

番号	意見(要旨)	件数
18	高校における特別支援教育について、教育環境の整備や教育内容・方法の工夫などの必要性を感じている。早急に対応してほしい。特に小規模化の進む離島の高校には、他の高校にはない魅力と活力ある教育の一環として、特別支援教育の充実が必要である。	1
19	高校と特別支援学校の連携をより一層深め、例えば将来的には高校と養護学校をひとつの学校にすることなども研究してほしい。	2

8. 再編成に関する意見

番号	意見(要旨)	件数
26	今後の中学校卒業生数を考えた場合、適切な地域で適切な統廃合による学級減を段階的に行い、望ましい規模の高校づくりを行うことは避けられないと考えられる。学級減は生徒数の減少が多い地域で行う配慮が望まれる。	1
27	生徒の通学や地域への人材供給の観点から、公立高校の県内配置は現状を維持してほしい。水産高校も県内水産業の拠点地にあるため、2校とも残すべきである。	1
28	高校の統廃合には反対である。第1志望を近くの高校にすれば統廃合はなくなるのではないか。	1
29	学校の標準規模の設定はある一定の目安としては必要と思うが、規模に固執すると生徒の様々な希望に対応できなくなる可能性もある。選択肢を維持し学校を活性化し、子どもたちの健全な成長と明るい将来を目指すことが今の時代に求められているのではないか。	2
30	画一的な教育ではなく、地域の文化、伝統、産業を伝えるためにも高校の配置を考えるべきであり、特に県境付近にある高校を重視すべきである。また、地域から高校がなくなることによる親の経済的な負担増や教育の機会均等について配慮すべきである。合理化ばかりでは県を思うよい人材は育たない。	4
31	隠岐の島は、地理的ハンディの他、物的・経済的にも大きな負担を余儀なくされている。高校教育の機会均等を図る意味においても、地域の活力を失わないようにするためにも、隠岐の高校は多少生徒数が減少しても、現在のまま存続できるよう、特例として検討してほしい。特に水産高校はたとえ1学年1学科1学級となっても単独の専門高校として存続させるべきである。	4
32	地域から学校がなくなることは地域活力の低下につながる。また、学級数だけで教職員定数を決めるのではなく、進路保障や特別支援教育への対応など一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育支援体制をつくるためにも国に対して教職員定数の見直しなどの働きかけをしてほしい。	3
33	僻地の学校ほど生徒は少なくても、成績も幅があったり、進路状況もまちまちであるなど生徒のニーズは多様化している。学校の実態や地域に応じた教員数を配置してほしい。	1
34	離島や中山間地域の高校の小規模化という課題は、全国(海外)的に多数あると思われる。同じ課題を持つ都道府県と連携して解決方法を検討したり、共同で国へ提言を行うなどの運動を展開すべきである。また、他の都道府県の高校生と交流したり、生徒を受け入れたりすることも検討する必要がある。	1

番号	意見(要旨)	件数
35	県境付近に位置している高校は県外からの枠を撤廃することにより入学者の増加が期待できる。特に周辺の高次に設置されていない専門学科は確実に増える。また、中山間地の高校では、将来1学級40名の定員を確保することができなくなると予想されるので、30人に引き下げてほしい。	7
36	高校の統廃合の問題は離島にとって大変重要な問題であり、地域として取り組みたい喫緊の課題であるが、議論の場や議論の醸成のための方策についてどう考えているのか。高校・県としてどのような体制をもって地域と取り組んでいくのかも含めて示してほしい。	1
37	離島や中山間地域の高校が統廃合とならないような魅力ある高校づくりについても議論してほしい。	2
38	中山間地域の高校では生徒募集のため、地域とともに様々な取り組みが行われているが、他地域からの通学の利便性を向上させるため、関係機関へ働きかけてほしい。また、寮を整備・充実してほしい。	2
39	地元に残したいのであれば、寮の配置校数を減らすなど地元から高校生が離れない工夫が必要である。同時に地元の学校の進学指導体制を整えることなどを考える必要もある。寮の配置を見直すことによって生まれる財源で学校の整備や教員の増員ができるのではないのか。	1
40	県立高校の全日制課程に進学する生徒が減少する理由は単に人口減少だけでは考えにくい。平成19年3月の県内中学校卒業者のうち約24%の生徒は、私立高校、特別支援学校高等部、定時制・通信制課程高校、高等専門学校、県外等に進学している。特に通信制課程に在籍している生徒の比率が全国でも高い割合である。それぞれへの進学者数がどのように推移しているのか、その原因は何か、検証する必要がある。	1
41	高校の統合によって、歴史と伝統ある校名が失われるのはいかがなものか。	1

9. その他

番号	意見(要旨)	件数
42	松江市内普通科3校の通学区域は、生徒の個性や能力に応じた幅広い学校選択を確保するため、撤廃すべきである。それぞれの学校が工夫・努力し、特色と魅力ある学校をつくるのが本来のあるべき姿である。	2
43	検討委員会の高校視察10校の意見・提言、思い等も資料として公開してほしい。	1
44	意見募集の期間が短く、保護者や地域の人にほとんど周知されていない。再公募を検討してほしい。どの地域の意見が何通くらいあったのか資料を示してほしい。	1

10. 意見提出者の市町村別内訳

住所(市町村)	提出者数	住所(市町村)	提出者数
松江市	5	津和野町	5
東出雲町	1	吉賀町	2
出雲市	5	隠岐の島町	2
大田市	1	海士町	7
邑南町	8	西ノ島町	1
江津市	1	知夫村	2
益田市	3	不明	3
		計	46